

## 平成29・30年度 第4回高崎市公民館運営審議会 会議録

**開催日時** 平成30年1月30日（火）午後1時30分から3時7分

**開催場所** 高崎市中央公民館 第1集会室

**議題**

- 1 平成29・30年度諮問について
- 2 調査・研究テーマについて

**公開・非公開区分** 公開

**出席委員**（15人）

関崇裕委員 ・ 岩井真委員 ・ 樋口克己委員 ・ 小屋美香委員  
松本賢一委員 ・ 飯野茂委員 ・ 山崎紫生委員 ・ 吉村晴子委員  
関正委員 ・ 山口堅二委員 ・ 中司恵理委員 ・ 松田裕子委員  
新利恵子委員 ・ 高山和一郎委員 ・ 堤香代子委員

**欠席委員**（5人）

相模透委員 ・ 綾部園子委員 ・ 森周子委員 ・ 小見勝栄委員  
丸茂ひろみ委員

**成立** 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

**事務局出席者**

松田匡子中央公民館長 ・ 黒崎喜由教育担当係長 ・ 櫻井衛次長 ・ 中島洋紀次長  
冨丘高行次長 ・ 大野雅美主査 ・ 菅野典子行政嘱託

**傍聴定員** 5人

**傍聴者数** 0人

**所管部課名** 教育部高崎市中央公民館

# 平成29・30年度 第4回高崎市公民館運営審議会 議事録

## 議事

### 1 平成29・30年度諮問について

会長： お手元の議事に沿って、進行したいと思います。まず、平成29・30年度諮問について、中央公民館長、よろしくお願いします。

中央公民館長：平成29・30年度諮問について、ご説明させていただきます。社会教育法第29条の2項に、「公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するものとする」と記載がございます。これにより、審議会委員さんには、中央公民館と地区公民館の館長で組織している高崎市公民館連絡協議会（館長会）からの諮問事項に対し、答申を行っていただいております。しかしながら、ここ数年は同じようなテーマで諮問を行っており、また、2年ごとに答申をいただいておりますので、各公民館で自己点検をする時間的余裕がないのが現状です。従いまして、答申を受けての取り組みや自己点検をする期間として、29・30年度は公民館連絡協議会から審議会への諮問は行わないことといたしました。今期は、委員さんの目線でテーマを決めて、調査、研究をして、ご提言等していただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

会長： 平成29・30年度は諮問が提出されないということなので、答申はないということですが、それに代わり、私たちがテーマ等を決め、研究をして、実践の具体例を示せるような提言等をまとめていきたいと思っております。

### 2 調査・研究テーマについて

会長： 今日は、皆さんにご意見をいただきますが、次回の審議会までに調査・研究のテーマについてご意見をお寄せいただきたいと思います。昨年度の答申の中では、地域資源を発見し、それを地域コミュニティの活性化に活かすための学びと実践の活動が提起されています。各地域のお宝を探し、磨き、地域活性化のために活かす公民館事業を提案したいと思っております。

学識経験者B：私は長く委員をさせていただいておりますが、2年ごとに公民館活動の向上、質が上がるように、答申を出してきました。現在は、公民館事業は質も高く、ブロック体制も機能していると思っております。素晴らしい活動をしているが、公民館

の研修会等で、何館かが事業活動報告をしているだけで、広く市民には知られていないような気がします。公民館を全然知らない人、興味のない人に公民館活動を知ってもらうには、発表の場を持ち、この地域はこんなことをやっているというような紹介を含め、PRすることだと思います。例えば、シティギャラリーで、公民館の活動や公民館を拠点に活動しているグループの発表を行うような催し物を一堂に会し、2年、3年に1回くらい開催する。そして、メディアにも取り上げてもらう。そうすれば、公民館の利用者も隣の地域の公民館の活動を知ることができ、公民館のことを知らない市民にもわかってもらえる。不特定多数の人がたくさん集まるような催しに合わせて開催してもいいと思います。

会長： 生涯学習フェスティバルとは違うのですか。

中央公民館長：生涯学習フェスティバルでは、社会教育関係団体の2団体が発表しています。

会長： 定期的に公民館ごとの活動を紹介する機会を持つということですね。それでは、引き続き、お1人ずつお願いします。

倉渕地区選出委員：年1回、NPO・ボランティアフェスティバルがソシアスで開催されています。そこで、私が活動をしている「倉渕ほたるの会」では、パネルを出したり、紙芝居をしたりしています。公民館ともうまく連携してやっています。

今年度、公民館の館長さんが替わり、新しい風が吹き、今までの公民館とちょっと変わりました。

私は、以前からもっと公民館同士の横の連携がとれば良いと思っていました。一生懸命、公民館でもやっていますので、やはり発表の場があればいいと思います。例えば、ここにいる人がこの場で、実践の発表をしても参考になるのではないかと思います。

青年会議所選出委員：私は高崎青年会議所から選出されていますが、そこでは講演会をよくやります。講師の方で、養豚場の経営者で、福祉関係にすごく力を入れられていて、障害者を多く雇用し、地域に根差した活動をしている方がいました。地域にフリースペースみたいなものを用意したら、子どもが来る。そうすると大人も集まる。そういう流れができる。実際にそれを行った方です。皆さんにも是非、聴いてもらいたいと思いました。そういう方をお呼びして、講演会のようなことをやっていただくと、意識が高まると思います。

P T A連合会選出委員：P T Aから選出されておりますので、子ども目線で考えたいと思

います。小学生から見た公民館はどうか。小学生で、公民館の場所を知っている子がどれだけいるか。公民館を利用したことがある子がどれだけいるか。どのようなことをやったら、公民館に行ってみたいと思うか。全ての学校にアンケートをとるのは難しいと思いますが、地域性の違う、例えば、市の中心部にある学校、ちょっと郊外にある学校、山間部にある学校を選ぶ。地域により、違う結果が出てくるのではないかと思います。子ども達に多く利用してもらうためには、どうしたらよいか、アンケートを取り、分析すれば、より子ども達が集まり、活気ある公民館になるのではないかと思います。

会長：　　今までに子どもに特化したものは、ありましたか。特にないですか。各公民館では、イベント等の参加者数は集計していると思いますが、確かに、そのようなことはやっていないですね。

P T A連合会選出委員：自分の地域の公民館の場所を知らない小学生が、こんなにいたのかというような、驚くようなデータが出ると思います。

ユネスコ協会選出委員： 諮問はないので、答申はないということを知り、却って大変なのかなと思っています。

公民館活動で大事なポイントの1つに、地域人材、地域素材の活用が挙げられると思います。毎回、答申の冒頭に出てくるくらい大事なことです。ユネスコでは、上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会の会長や群馬県立女子大学の教授に来ていただき、講演会を開催しています。地域にはこんなにいい素材があるということがわかり、目から鱗が落ちるような感じがします。テーマを設け、調査をする中で、講師を呼んで、我々も勉強させてもらう。広く市民参加してもらうには、会場も必要になる。大学の先生だけでなく、いろいろなところで活動されている方に講師になっていただいてもいいと思います。

家庭教育関係者A：毎年、冬に町内公民館でカルタ大会の練習をします。私が子どもの頃の公民館でのカルタの練習では、学年も関係なく、一緒に遊んでいた記憶があります。今は、参加者が少なくなっています。城址公民館では、子どもだけでなく、親子、おじいちゃん、おばあちゃんとお孫さん、家族がチームになって、カルタ大会をするということを回覧板で拝見しました。意図的に集めようと思わないと集まらないようです。お母さんが集まってカルタの練習のことを話し合い、カルタの練習だけでは集まらないので、ハロウィンの時期が近かったので、ランタンづくりを前半にして、後半にカルタの練習をするという企画を考えました。定員を超えて、大盛況でした。そのように興味があると参加したいのだと思いました。私もこの審議会に携わらせていただいて、公民館でこんなに素敵な、いろいろな

行事、講座をやっていることを知りました。身近なところで行われていても、知らずにいたり、出向くところまでいかない。アンケート調査のことが出ていますが、その地域で利用する人達に、世代ごとに実施してもいいと思います。私の場合は、家庭教育という立場で来ているので、子育て家庭の保護者の方々に、どのようなことに参加したいか、どういう時間帯が参加しやすいか、実施している講座や行事を知っているか等、直接、聞くことはすごく大事だと思います。保育園、幼稚園、学童保育、小学校等に協力を依頼し、保護者の方へのアンケート調査も可能かなと思います。回答者の声を聞きながら、講座の企画を立てることも大事だと思います。また、個人的には全国の好事例等も調べてみたいと思っています。

市議会選出委員：高崎市の「教育委員会の点検・評価報告書」が出され、昨年の総務教育常任委員会で報告がありました。たくさんの施設等がある関係で、公民館に関しては、この報告書にはあっさりと言われていますが、中身は充実しており、地域の特色を捉え、活発に活動されていると委員からお褒めの言葉をいただきました。旧高崎市内には小学校区にそれぞれ公民館が配置され、身近な存在であると同時に、公民館もとてもがんばっているからだと思います。今回は、諮問はせず、各公民館の活動を充実させ、点検する期間にするということで、それは充実された活動をされていることの証左なのかなと思っています。そういう中で、身近な存在である公民館は、もっと小学生が利用できるようなきっかけづくり、PRを行うことができると思います。また、高齢者の人口が増え、定年退職後の時間をいかに充実させるかということも大きなテーマになっています。その受け皿として公民館は大事だと思います。公民館を知らない人、公民館活動に参加したことのない人には、ちょっと敷居が高く感じてしまうようです。公民館活動に、多くの住民の方が参加できるような仕掛けづくりが必要だと思います。高齢者の方が時間を持て余しているという悩みを聞いたので、公民館に行ってみたらどうかと勧めたのですが、行きにくいようでした。しかし、その人は、1か月に1度くらいのペースで開かれる、地域サロンには出かけています。地域の知っている人達が集まって、お茶を飲んでおしゃべりをするということなので、行きやすいので行く。では、そのサロンから公民館へのパイプができると公民館に行ったことのない人も行きやすくなるのではないかな。公民館が、身近な存在であるがゆえにできることだと思います。最大限に、高崎市の資産である公民館の特徴を活かした活動ができればいいと思っています。

会長： 私の地域では、地域の方々の要望により、地区の住民センターでは、地元の古文書を読む講座などが開かれたことがあります。住民からは、地元の歴史や遺産についてじっくり時間をかけて学びたいという要望が特に退職者から寄せられています。このような要望を公民館へつなげることも重要だと考えます。

区長会選出委員：公民館運営推進委員会で、館長さんを推薦します。公民館運営推進委員は、区長、校長、PTA、いろいろな関係者で構成されています。館長さんには、公民館に人が立ち寄りやすくなるような公民館づくりに努めてもらいたいです。公民館の事業の計画は、館長さんと主事さんで立てています。私の地区の地域づくり活動協議会では市の助成金をもらい、行事を決め、ハイキング、運動会、グランドゴルフ等を行っています。乗附、片岡、寺尾の3校区は、いつも一緒にやっていますので、同じような進め方をしています。

PTA関係者は、1年、2年で替わってしましますが、区長は長くやっている方が多く、地区のことがよくわかっている方が多いです。地区によっては、1年で交代するところもありますが。

中央公民館長：各地区公民館に公民館運営推進委員会があり、そこで、地区の館長さんの推薦を出してもらっています。

箕郷地区選出委員：私もここ何年か、公民館にお世話になっていますが、確かに利用者の減少、利用団体や講座に人が集まりにくいということは、公民館に共通していることではないかと思います。公民館もいろいろと努力はしているとは思いますが。回覧板で、広報や公民館だよりが回ってくるのですが、多くの回覧物の中の一部なので、目立たない。一般の人から見たら、公民館と同じようなお知らせがあるので、公民館も周知しようと努めても、うちの地区の場合、伝わらないことが多いのかと思います。公民館が社会教育の唯一の拠点だった時代は、とても存在感が大きかった。しかし、今は体育館、福祉センター、長寿センター等いろいろな施設があり、大勢の人が集まっている。そこでも、講座、ゲーム、いろいろなことをやっている。そういう意味でも、公民館が他の施設と時期が重ならないように調整できれば、もう少しうまくいくと思います。いい講座をやって、人を集めようと思えば、いい講師を呼びたい。しかし、講師料も安くない。難しい点はたくさんあります。夜に実施することもあります。基本はウィークディに開催しているので、仕事をしている人は集まりにくいというのが現状です。公民館では、地域人材を活かし、地域の文化財、歴史を学ぶような講座等は継続されています。新しいものだけを考えるのは難しいので、以前にやったものも復活させればいいと思います。

群馬地区選出委員：公民館で図書ボランティアとして活動させていただいており、今、図書室のレイアウトや図書室の問題等を皆さんと一緒に考えているところです。

私は、体育振興会の菅谷町の支部長をやっています。運動会は、盛大に行われていますが、区長さんから菅谷町にはお祭りがいいから、お祭りをやってほしいと依頼されました。しかし、どこから手をつけていいのかわからない。堤ヶ岡

公民館の地区内では、いろいろなお祭りをやっています。そこで、人づてにいろいろな話をお聞きしています。そういう話し合いの場を公民館で行えばよかったのかなとも思っています。昔あったお祭りと同じようにすればいいと言う方もいますが、私はお祭りの参加者の1人ひとりが、モチベーションを持ってやってもらいたいと思っています。こうあるべきというよりも、参加者を盛り上げ、お祭りをつくっていくべきだと思っています。その辺が難しいです。

また、堤ヶ岡小学校区内で学童保育の指導員もしています。分譲した住宅団地が広がり、学童保育に入る子ども達がすごく増えてきています。以前は6年生くらいまで入れていましたが、今は、3年生でも入れないこともあるような状況です。群馬地域の公民館では、子ども支援事業を行なっていますので、学童保育の関係者の中では、公民館とうまく連携できないかという話が出ています。群馬地域は児童館が公民館になった経緯もあり、子どもが公民館に行くことは、私の世代では当然のことであり、公民館の夏や春のイベント等もとても盛況です。

会長： 二十二夜様、庚申様はご存知ですか。ある地域の若い方から止めたいと申し出があったそうです。祭りもほとんどの地域では少子高齢化のため、危機的状況です。祭りを続けている地域の調査をすれば、続けるためのヒントが見つけれられると思います。高崎市の各地域の祭りを資源とした実態調査を行うこともいいかなと思います。他地域で課題をどう解決したかを学び、自分たちの地域の課題解決に活かすことが可能になります。

榛名地区選出委員：審議会委員になるまで、公民館に縁がなく、公民館はただの集会場だという意識しかありませんでした。私は、榛名地域ですが、身近に公民館がないので、足を運んでおりませんでした。委員になり、公民館の活動を知りました。「榛名公民館だより」も目にしますが、紙ではインパクトがなく、こちらに関心がないから、足を運ばない。そういう意味では、今回、委員になって、前よりチラシをよく見るようになりました。チラシのほかに声をかけると参加の人が増えます。関心が低い人にとっては、発表会のようなものがあれば、おもしろそう、行ってみようという動機づけになり、盛り上がるのではないかと思います。

吉井地区選出委員：吉井地域には公民館は1館しかないのですが、いろいろな企画をしてください。公民館の事業は、集客力があり、アンケート結果でも良かったと思う人が多いようです。しかし、1館しかないので、来られない人も多いと思います。参加者が事業の様子を伝えることができれば、一番いいと思いますが、伝えるということは難しいものです。また、回覧板は、見てくださる人が多いようなので、公民館だよりにより事業報告も掲載すれば、目に留めてくれ、公民館事業を知り、行ってみようと思ってもらえるのではないかと思います。ただ、若い人達は、

あまり公民館に興味がなく、行事でもあまり姿を見かけません。若い人達に公民館活動を知ってもらおう工夫もいろいろ考えなければいけないと思います。吉井地域では、地域の町内公民館活動が活発で、チラシも回覧板の一番上で回ってきます。私は、サロンに行っているのですが、来ている方は、皆、元気です。参加している人が紹介することが大事で、地域のつながりの中で、活動が生まれてくるかなと感じています。夏のお祭りやどんど焼きは、地域の大きな活動の1つで、地域の公民館の活動として行なっています。そういう点では、地域の公民館と吉井公民館は、それぞれの活動を続けてもらえればいいと思います。

公募委員A：私は、地区の公民館で、災害発生時の対応というテーマで、講話をしたことがあるのですが、多くの方に集まっていたら、それなりに効果があったのではないかと思います。

館長の年齢は、推薦する年の4月1日現在、74歳までですか。この時世ですから、プラス2歳くらいにしてはどうですか。それから館長になる人というのは、やはり生涯学習推進員も同じでしょうが、役所の経験者がいいのではないかと思います。私も区長を8年やりましたが、館長が区長に遠慮しているように思います。区長に遠慮することはない。勿論、館長は区長と連携をとらなければうまくいかないが、もう少し自信を持ってやってほしいと私は言っています。

生涯学習推進員はどのように選ばれているのですか。人集めができない生涯学習推進員は、必要ないと思います。イベントをやっても人が集まらない。7名くらいしか集まらない講演会なんて、講師に失礼です。回覧板で知らせるだけでは、人は集まらないから、声をかけなければ駄目です。

審議会委員は、どのような会議に参加したらいいのでしょうか。地域から推薦されている方は、地域の公民館運営推進委員会には、参加されているのでしょうか、私は、どのような会議に出たらいいのでしょうか。町内公民館の館長さんから会議に出るように言われたことがあるのですが、行きませんでした。オブザーバーで、意見は一切言わないのであれば、顔を出してもいいのでしょうか。地区公民館ではどんなことを検討し、勉強しているのか、耳にするのもいいのかと思い、会議に行ってもいいかと確認したら、断られたことがあります。その辺のところも今後、検討していただければと思います。

中央公民館長：生涯学習推進員の委嘱は、社会教育課でやっており、任期は2年です。少額ですが事業費をお渡しして、事業をしていただいています。費用面、人集めも、経験がない人には、事業を企画、運営するのは大変だと思います。公民館と共催で事業を実施しているところもありますので、地区公民館の館長、主事にご相談していただければと思います。



公募委員 B：地区公民館で、読み聞かせと図書の貸出ボランティアをやっています。図書館は中央公民館と同じ敷地にあったのですが、街中に移り、私の地域からは少し遠くなったことにより、地区公民館の図書室に来られるようになり、利用者が増えました。来てくださった方からは、充実していると言われます。読み聞かせについては、学校の帰りに寄ってはいけないので、帰宅後、わざわざ来るお子さんはいない。東公民館は、近いので、帰宅後、公民館に遊びに行きやすい。群馬地域については、児童館だったので集まりやすいという話を聞き、うらやましく思いました。お母さんと幼児が来られるような時間帯に変え、やってみようとも思っています。ただ、今のお母さんは働きに出てしまうので、お母さんが図書室に来られるのは、お子さんが1歳くらいまでなのです。公民館に子ども達に来てもらえるような方法を考えています。

会長： 様々な角度からご提案いただきありがとうございます。昨年度の答申では、これからの社会に求められる公民館事業として、地域資源を活用した地域づくりが提案されています。そこで、私は各地区の地域資源調査を通して、地域資源を発掘し、それを持続的な地域づくりに活用する方法を提案したらどうかと考えております。

学識経験者 B：全公民館が参加する公民館フェスティバルみたいな行事をすれば、会場の借り上げ料等、経費がかかります。予算は1年前か2年前くらいでないとお通らないのですか。

中央公民館長：次年度の予算をつくる時に要求しなければなりません。高崎市公民館研究集会や社会教育課が開催している生涯学習フェスティバル等の絡みもあります。ここだけでやりたいというだけでは、難しいと思います。2、3年くらいの時間をかけて、話を進めていかないといけないと思います。例えば、予算をかけず、会場を中央公民館の集会ホールにするのであれば、開催できる可能性はあるとは思っています。

会長： 長時間に亘り、ありがとうございます。

中央公民館長：委員さんには、テーマを決め、調査、研究をしていただくことになり、負担がかかってしまうと思います。会長から、各地区の地域資源の発掘と活用に関する調査研究というご提案がありました。他にこういうテーマで調査研究し、提言したらどうかというご意見を2月23日までに、中央公民館へ、メール、FAX、またはご持参いただき、ご提出していただければありがたいと思います。

会長： よろしくお願ひいたします。では、事務局から報告をお願ひいたします。

#### **報告・連絡事項**

事務局 ・ 第2回審議会の会議録及び議事録について

#### **閉会**

事務局： ご審議ありがとうございました。それではこれもちまして、平成29・30年度第4回高崎市公民館運営審議会を終了いたします。大変、お世話になりました。